

○ 神奈川県庁で畜産フェア、県産畜産品が一堂に集結—神奈川県

地元神奈川県産の畜産品を県民に広く認知してもらおうと、県内産畜産品が一堂に会した初のイベント「かながわ畜産フードコレクション」が17日、横浜市中区の県庁本庁舎で開かれた。当日は「相州牛」「横浜ビーフ」「高座豚」「かながわ夢ポーク」など県内産の牛肉、豚肉、乳製品、卵製品などの関係事業者・組織ら27ブースが出店し、焼肉やソーセージ、ジェラードアイスの販売・試食を実施。会場には1万人以上が来場するなど終日多くの賑わいを見せた。

これまでも県内各地で生産者団体などが主体となり県内畜産への理解醸成のためのイベントが開かれてきた。今回のイベントは、ソーセージやカレー、プリンといった県産畜産物から作られた加工品にスポットを当てたもの。県畜産課によると、神奈川県は横浜港開港により近代の養豚技術の確立やハム発祥の地とされ、現在も多くのかかわりのある畜産ブランドがある一方、県の面積は47都道府県



のうち43位と狭いことから生産者の規模・戸数も大きくはなく、県民への認知度も不足しているという。このため多く

の消費者に地元産の美味しい畜産フードがあることを知ってもらおうと、県では、県畜産協会や県肉連、県肉用牛協会、県養豚協会など関係17団体と運営委員会を組織し、開催準備を進めてきた。

この日は、本庁舎の公開日に合わせて開催され、試食・販売のほか畜産クイズやゆるキャラも登場するなど会場は大いに盛り上がりを見せた。県では来年度以降も同イベントを継続開催したい考えだ。

○ アグリス・ワンがSQF認証を取得、食肉センターでは関東初

ミートコンパニオン（東京・立川市、阿部昌史社長）は18日、グループ会社のアグリス・ワン和光ミートセンター（埼玉・和光市）が、安全品質食品国際認証であるSQF認証を11月10日付で取得したことを発表した。食肉センターとしての取得は関東で初という。

同センターでは、今年2月から認証取得に向けた準備を進め、SQFのcode7.1の規定に従って10月の審査まで短期間でシステムを構築した。SQFシステムを全従業員に浸透させるため、定期的なミーティングや講習会を実施するなど、特に従業員教育に力を入れたという。またミートコンパニオングループでは責任者であるSQFプラクティショナーを3人養成しており、衛生管理体制をさらにレベルアップさせ、今後は、グループの他工

場においても順次取得を進めていく予定という。

ミートコンパニオンではことし1月末にタイに現地法人を設立。また同社の海外輸出ブランド「WAGYU SAMURAI」を立ち上げるなど、アジア市場を中心に食肉輸出に積極的に取り組んでいる。今月からタイ現地法人を増資して日本人駐在人を2人置き、現地人スタッフとともに、バンコク市内のエンドユーザーに積極的な販売活動を展開、「WAGYU SAMURAI」の認知度も向上しているという。

アグリス・ワンは、マカオおよびタイへの牛肉輸出認定施設であり、今回のSQF取得を機に、そのほかの有力な海外市場への輸出施設認可の取得も目指していく方針だ。

○ ケニー首相らトレードミッション来日で朝食会を企画—アイルランド食糧庁

アイルランド政府食糧庁主催の「ネットワーク朝食会&サステイナビリティセミナー」が12月3日、東京都港区のホテルオークラ東京で開かれる。食品業界関係者らを対象にした同セミナーは、エンダ・ケニー同国

首相を団長とするトレードミッションメンバーの来日に伴い企画されたもの。今回のミッションでは、現在輸入解禁に向け両国間で手続きが進められている同国産牛肉についても積極的な売り込みをかける、とみられる。